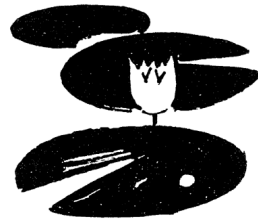


# 農業



平成28年8月号  
会誌 No. 1615

## 目次

### 巻頭言

変貌するわが国の水田農業……………八木 宏典 3

### 論壇

農学教育と農業教育：ミャンマーの大学現場から……………田中 耕司 4

### 農業懇話会

水田の飼料生産利用の展開方向……………千田 雅之 6  
-生産力及び経営的視点から-  
質疑応答…………… 23

### 農事功績者座談会

肉用牛繁殖・稲作複合経営…………… 27  
私の経営と農業への思い……………細谷 精悦・細谷奈留子 27  
現地指導者のコメント……………戸嶋 忠 35  
意見交換…………… 37

### 研究の最前線

時代を切り開くためのリンゴ品種育成の動向……………阿部 和幸 46

農業・農村の現場から

岩手県二戸地方の雑穀食文化を伝承する……………佐藤 明子 56  
 及川 一也  
 高草木雅人  
 中川あゆみ

世界の農業は今

デンマークにおける有機農業政策……………浅井 真康 62

私の経営と志

御食国おばまから農を考える……………木村 武史 68

統計情報

畜産統計（平成28年2月1日現在）…………… 70

農政情報

大日本農会だより…………… 72

ミニ情報

地理的表示保護制度(GI)に基づき登録された特定農林水産物(1), (2)  
 …………… 45,67

表紙写真説明

収穫間近のアマランサス（岩手県九戸郡<sup>かるまいまち</sup>軽米町）

岩手県の県北部では、畑の輪作作物として古くから雑穀が栽培されている。その中でもひとときわ見ごたえもあり、異彩を放つのがアマランサス。多くの雑穀がイネ科の在来種や改良種であるが、アマランサスは、南米アンデス南部の山岳地帯を原産地とするヒユ科ヒユ属の一年生植物である。

東北新幹線・二戸駅から北東に車で40分ほどの青森県境に位置する軽米町は、国内第一位のアマランサスの産地。9月中旬から下旬にかけて収穫適期を迎えたアマランサスは、きれいな赤いケイトウの花のような特徴のある穂をつける。この穂には、とても小さな種子がびっしりとついている。あまりに小さく細かい種子のため、出荷にあたっては、ピンセットで異物を除去しなければならないなど、雑穀販売業者泣かせの雑穀でもある。

しかし、精白しないで全粒のまま食するアマランサスには、ビタミンB6や葉酸、マグネシウム、鉄、亜鉛などが豊富。独特の香りやツブツブ感があり、好みは別れるが、スーパーグレインとして健康志向の消費者に人気を博している。

（元岩手県県北広域振興局農政部二戸農林振興センター  
 現岩手県県南広域振興局農政部一関農林振興センター 佐藤 明子）